

専任教員の実務経験

氏名	資格・実務経験	教育科目
島屋敷 英修	言語聴覚士 病院における臨床5年以上 週1回学外臨床参加 日本言語聴覚士協会 会員	リハビリテーション概論 失語症Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 吃音 臨床作文 言語聴覚障害診断学Ⅰ、Ⅱ
東 早代	言語聴覚士 病院における臨床5年以上 週1回学外臨床参加 日本言語聴覚士協会 会員	成人聴覚障害Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ 臨床心理検査法 言語聴覚障害診断学Ⅰ、Ⅱ 高次脳機能障害Ⅰ、Ⅱ
松田 知里	言語聴覚士 病院における臨床5年以上 週1回学外臨床参加 日本言語聴覚士協会 会員	言語発達学 言語聴覚障害総論(小児) 言語聴覚障害概論(小児) 言語聴覚障害診断学Ⅰ、Ⅱ 言語発達障害(知的障害) 言語発達学演習Ⅰ、Ⅱ 機能性構音障害Ⅰ、Ⅱ
河野 真紀	言語聴覚士 病院における臨床5年以上 週1回学外臨床参加 日本言語聴覚士協会 会員	言語聴覚障害診断学Ⅰ、Ⅱ 言語発達学演習Ⅰ、Ⅱ 脳性麻痺Ⅰ、Ⅱ 学習障害 器質性構音障害 小児聴覚障害Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ 関係法規
木佐貫 太陽	言語聴覚士 病院における臨床5年以上 週1回学外臨床参加 日本言語聴覚士協会 会員	言語聴覚障害診断学Ⅰ、Ⅱ 摂食嚥下障害Ⅰ、Ⅱ 言語聴覚障害学特論Ⅰ
木村 隆	言語聴覚士 病院における臨床5年以上 週1回学外臨床参加 日本言語聴覚士協会 会員	言語聴覚障害総論(成人) 言語聴覚障害概論(成人) 言語聴覚障害診断学Ⅰ 運動性構音障害Ⅰ、Ⅱ 摂食嚥下障害Ⅰ、Ⅱ 言語聴覚障害学特論Ⅰ、Ⅲ

言語聴覚学科 (2年生)

専門課程(医療分野)

教育課程及び授業時数

区分		科目	規定単位	計画単位(時間)	1学年単位(時間)	2学年単位(時間)	3学年単位(時間)	実務
基礎分野	人文科学	コミュニケーション学	2	2 (30)	2 (30)			
		倫理学		2 (30)	2 (30)			
	社会科学	心理学総論	2	2 (30)	2 (30)			
		社会福祉学		2 (30)	2 (30)			
	自然科学	統計学	2	2 (30)	2 (30)			
		生物学		1 (15)	1 (15)			
		物理学		1 (15)	1 (15)			
	外国語	情報科学	4	2 (30)	2 (30)			
		日常英語		4 (60)	4 (60)			
	保健体育	医学英語	2	4 (60)		4 (60)		
保健体育	保健体育	2 (60)		2 (60)				
		小計	12	24 (390)	20 (330)	4 (60)		
専門基礎分野	基礎医学	医学総論	3	1 (15)	1 (15)			
		解剖学		2 (60)	2 (60)			
		生理学		2 (60)	2 (60)			
		病理学		1 (30)	1 (30)			
	臨床医学	内科学	6	1 (30)	1 (30)			
		小児科学		1 (30)		1 (30)		
		精神医学		1 (30)		1 (30)		
		リハビリテーション医学		1 (30)	1 (30)			
		耳鼻咽喉科学		1 (30)		1 (30)		
		臨床神経学		2 (60)		2 (60)		
臨床歯科医学	臨床歯科医学・口腔外科学	1	1 (30)		1 (30)			
音声・言語聴覚医学	呼吸発声発語系の構造・機能・病態	3	1 (30)		1 (30)			
	聴覚系の構造・機能・病態		1 (30)	1 (30)				
	神経系の構造・機能・病態		1 (30)		1 (30)			
	臨床心理学		1 (30)	1 (30)				
心理学	臨床心理検査法	7	1 (30)		1 (30)			
	生涯発達心理学		2 (60)	1 (30)	1 (30)			
	学習・認知心理学		2 (45)		2 (45)			
	心理測定法		1 (15)		1 (15)			
言語学	言語学	2	2 (60)	2 (60)				
音声学	音声学	2	2 (60)	2 (60)				
音響学	音響学	2	1 (30)	1 (30)				
言語発達学	聴覚心理学	1	1 (15)			1 (15)		
言語発達学	言語発達学		1 (30)	1 (30)				
社会福祉・教育	社会保障制度	2	1 (30)	1 (30)				
	リハビリテーション概論		1 (30)	1 (30)				
	関係法規		1 (15)			1 (15)		
		小計	29	35 (960)	19 (555)	14 (375)	2 (30)	
専門分野	言語聴覚障害学総論	言語聴覚障害学総論(成人)	4	1 (30)	1 (30)			○
		言語聴覚障害学総論(小児)		1 (30)	1 (30)			○
		言語聴覚障害学概論(成人)		1 (30)	1 (30)			○
		言語聴覚障害学概論(小児)		1 (30)	1 (30)			○
		言語聴覚障害学診断学Ⅰ		1 (30)		1 (30)		○
		言語聴覚障害学診断学Ⅱ		1 (30)			1 (30)	○
	失語・高次脳機能障害学	失語症Ⅰ	6	1 (30)	1 (30)			○
		失語症Ⅱ		1 (30)		1 (30)	○	
		失語症Ⅲ		1 (30)		1 (30)	○	
		失語症Ⅳ		1 (30)		1 (30)	○	
言語発達障害学	高次脳機能障害Ⅰ	9	1 (30)		1 (30)		○	
	高次脳機能障害Ⅱ		1 (30)		1 (30)	○		
	言語発達障害(知的障害)		1 (30)	1 (30)			○	
	言語発達障害(広汎性発達障害)		1 (30)		1 (30)		○	
	言語発達学演習Ⅰ		1 (30)		1 (30)		○	
	言語発達学演習Ⅱ		1 (30)			1 (30)	○	
発声発語嚥下障害学	脳性麻痺Ⅰ	9	1 (30)		1 (30)		○	
	脳性麻痺Ⅱ		1 (15)		1 (15)	○		
	学習障害		1 (30)		1 (30)	○		
	音声障害学		1 (30)		1 (30)	○		
	運動性構音障害Ⅰ		1 (30)		1 (30)	○		
	運動性構音障害Ⅱ		1 (30)		1 (30)	○		
	機能性構音障害Ⅰ		1 (30)		1 (30)	○		
	機能性構音障害Ⅱ		1 (15)		1 (15)	○		
	器質性構音障害		1 (30)		1 (30)	○		
	摂食・嚥下障害Ⅰ		1 (30)		1 (30)	○		
摂食・嚥下障害Ⅱ	1 (30)		1 (30)	○				
聴覚障害学	吃音	7	1 (30)			1 (30)	○	
	小児聴覚障害Ⅰ		1 (30)	1 (30)			○	
	小児聴覚障害Ⅱ		1 (30)		1 (30)		○	
	小児聴覚障害Ⅲ		1 (30)		1 (30)		○	
	成人聴覚障害Ⅰ		1 (30)	1 (30)			○	
	成人聴覚障害Ⅱ		1 (30)		1 (30)		○	
	成人聴覚障害Ⅲ		1 (15)		1 (15)		○	
	補聴器・人工内耳		1 (30)			1 (30)	○	
視覚・聴覚二重障害	1 (15)			1 (15)	○			
臨床実習	臨床実習	12	12 (480)			12 (480)		
		小計	44	48 (1500)	8 (240)	22 (615)	18 (645)	
選択必修分野	言語聴覚障害学特論Ⅰ	8	1 (30)				1 (30)	○
	言語聴覚障害学特論Ⅱ		1 (30)			1 (30)	○	
	言語聴覚障害学特論Ⅲ		1 (30)			1 (30)	○	
	専門臨床特論Ⅰ(画像診断学)		1 (30)		1 (30)			
	専門臨床特論Ⅱ(薬理学)		1 (15)			1 (15)		
	専門臨床特論Ⅲ(基礎運動学)		1 (15)		1 (15)			
	専門臨床特論Ⅳ(栄養学)		1 (15)			1 (15)		
	見学実習		1 (40)	1 (40)				
	評価実習		3 (120)		3 (120)			
	症例演習		1 (30)			1 (30)		
臨床作文	1 (30)		1 (30)					
		小計	8	13 (385)	2 (70)	5 (165)	6 (150)	
		合計	93	120 (3235)	49 (1195)	45 (1215)	26 (825)	

科目名： 医学英語（前期）

授業形態： 講義

担当教員：

ケラウエイ宏子

通年 4単位

【授業概要】 解剖学的に身体全般（骨格、皮膚、筋肉、心臓、消化器系、神経系）を英語で学習する。

【到達目標】 専門用語（医学英語）を覚え、理解する。
積極的に参加する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	オリエンテーション・人体各部の名称の英単語	ケラウエイ
2	人体各部の名称と機能の英単語	ケラウエイ
3	リハビリテーションの基本英単語①	ケラウエイ
4	リハビリテーションの基本英単語②	ケラウエイ
5	リハビリテーションの基本英単語③	ケラウエイ
6	医療用語の成り立ち①	ケラウエイ
7	医療用語の成り立ち②	ケラウエイ
8	英会話実践	ケラウエイ
9	医学・医療の基本英単語①	ケラウエイ
10	医学・医療の基本英単語②	ケラウエイ
11	医学・医療の基本英単語③	ケラウエイ
12	医学・医療の基本英単語④	ケラウエイ
13	英会話実践①	ケラウエイ
14	英会話実践②	ケラウエイ
15	総復習	ケラウエイ
16	定期試験	ケラウエイ

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。（約1時間）

復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。（約1時間）

【教科書名】 「カンタン リハビリ英会話 キーフレーズ600+」（新興医学出版社）

【参考書名】

【評価基準】 定期試験100%

科目名： 医学英語（後期）

授業形態： 講義

担当教員：

ケラウエイ宏子

【授業概要】 言語聴覚に関する専門的英語論文を読む。

【到達目標】 専門的英語論文の内容を理解する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	言語聴覚療法と言語聴覚士①	ケラウエイ
2	言語聴覚療法と言語聴覚士②	ケラウエイ
3	言語障害①	ケラウエイ
4	言語障害②	ケラウエイ
5	言語障害③	ケラウエイ
6	言語障害④	ケラウエイ
7	特異的言語発達遅滞児2例の自然発話における誤用の特徴（村尾 愛美 他）	ケラウエイ
8	失語症に対する言語聴覚療法（佐藤 睦子）	ケラウエイ
9	NSTにおける言語聴覚士の役割と効果的なアプローチ（石飛 進吾）	ケラウエイ
10	問診によるパーキンソン病患者の誤嚥の評価（山本 敏之）	ケラウエイ
11	高次脳機能障害を体験して（関 啓子）	ケラウエイ
12	運動性構音障害の臨床（椎名 英貴）	ケラウエイ
13	言語獲得初期における空間語彙と動詞の理解との関連（小山 正）	ケラウエイ
14	自閉症スペクトラムのコミュニケーション障害（藤原 加奈江）	ケラウエイ
15	総復習	ケラウエイ
16	定期試験	ケラウエイ

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。（約1時間）

復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。（約1時間）

【教科書名】 「カンタン リハビリ英会話 キーフレーズ600+」（新興医学出版社）

【参考書名】 「言語聴覚研究会誌」「音声言語医学学会誌」「嚥下医学学会誌」「リハビリテーションの基礎英語」（メジカルビュー社）

【評価基準】 定期試験100%

科目名： 小児科学(前期)

授業形態： 講義・実習

担当教員：

寛山 佳史

1単位

【授業概要】 小児特有な生理や、主な疾患の概要について学び、疾患に適した治療プランが出来るようにする。

【到達目標】 ①担当した疾患について、より深く理解できるような基礎知識と考え方を身に着ける。
②疾患名が多いので、ポイントをおさえる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	小児の発達と成長	寛山
2	遺伝性疾患と先天奇形	寛山
3	先天代謝異常症①	寛山
4	先天代謝異常症②	寛山
5	新生児疾患	寛山
6	神経疾患	寛山
7	筋・骨(含骨系統疾患)疾患	寛山
8	循環器疾患(主に先天性疾患と胎児循環)	寛山
9	呼吸器疾患	寛山
10	感染症	寛山
11	消化器疾患	寛山
12	腎・泌尿器疾患	寛山
13	免疫・エネルギー疾患	寛山
14	血液疾患・悪性腫瘍	寛山
15	心身症・障害児学(概論)	寛山
16	定期試験	寛山

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「小児科学・発達障害学 言語聴覚士のための基礎知識 第2版」(医学書院)

【参考書名】 資料配布

【評価基準】 定期試験100%

【授業概要】

精神医学の概念・歴史並びに精神機能の障害と精神症状について学ぶ。

精神疾患(脳器質性精神障害, 統合失調症, アルコール関連, 薬物関連, 気分障害, 神経症性障害 他)について特性・症状を学ぶ。

精神障害の治療並びに精神科保健医療等について学ぶ。

【到達目標】

精神医学の概念・歴史を理解し修得する。

基本の精神機能・精神症状並びに精神疾患の特性・症状を理解し修得する。

精神障害の治療・精神科保健医療・メンタルヘルスを理解し修得する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	精神医学概念・精神医学の歴史, 精神障害の成因と分類, 精神機能の障害と精神状態①	園屋
2	精神機能の障害と精神状態②	園屋
3	精神障害の診断と評価・脳器質性精神障害	園屋
4	統合失調症①	園屋
5	統合失調症②	園屋
6	アルコール関連	園屋
7	薬物関連	園屋
8	気分障害①	園屋
9	気分障害②	園屋
10	神経症性障害①	園屋
11	神経症性障害②	園屋
12	生理的障害および身体的要因に関連した障害	園屋
13	パーソナリティ障害, コンサルテーション・リエゾン精神医学	園屋
14	精神障害の治療とリハビリテーション, 精神保健医療とメンタルヘルス	園屋
15	総まとめ	園屋
16	定期試験	園屋

【授業外学修】

予習: 講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと(約1時間)。

復習: 授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと(約1時間)。

【教科書名】

「標準理学療法学・作業療法学 精神医学」(医学書院)

【参考図書】

「現代臨床精神医学」(金原出版)

【評価基準】

定期試験75% 小テスト20% レポート5%

科目名： 耳鼻咽喉科学(後期)

授業形態： 講義

担当教員： 手塚 征宏

1単位

【授業概要】 言語聴覚士国家試験に出題されるレベルの耳鼻咽喉科領域における、解剖学・生理学・病理学・疾患学に関する知識を身につけ、さらに言語聴覚士として勤務するにあたり要求される知識、応用力を養う。

【到達目標】 言語聴覚士国家試験の出題基準に沿って、本講義の内容を理解し知識を習得する。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	耳科学① 聴器の構造・機能	手塚
2	耳科学② 外耳、中耳、内耳疾患	手塚
3	耳科学③ 耳科手術、顔面神経疾患	手塚
4	耳科学④ 前庭、半規管	手塚
5	耳科学⑤ めまい疾患	手塚
6	鼻科学① 鼻・副鼻腔の構造・機能・検査、嗅覚	手塚
7	鼻科学② 鼻・副鼻腔の疾患Ⅰ(外鼻疾患、形態異常、外傷など)	手塚
8	鼻科学③ 鼻・副鼻腔の疾患Ⅱ(アレルギー、副鼻腔炎など)	手塚
9	口腔・咽頭科学① 口腔・咽頭の構造・機能・検査	手塚
10	口腔・咽頭科学② 口腔・咽頭の疾患(唾液腺、鼻咽腔閉鎖機能、味覚を含む)	手塚
11	喉頭科学① 喉頭の構造・機能・検査	手塚
12	喉頭科学② 喉頭疾患、音声外科	手塚
13	気管食道科学 気管・気管支・食道の構造・機能・検査、疾患など	手塚
14	頭頸部腫瘍学 良性・悪性腫瘍、治療法など	手塚
15	まとめ、復習	手塚
16	定期試験	手塚

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「言語聴覚士のための基礎知識 耳鼻咽喉科学 第2版」(医学書院)「イラスト耳鼻咽喉科」(文光堂)

【参考書名】 ある場合は講義中に紹介する

【評価基準】 定期試験 100%

科目名： 臨床神経学(前期)

授業形態： 講義

担当教員：

横山 幸三

通年 2単位

【授業概要】 高次脳機能障害、錐体路徴候、錐体外路徴候などの中枢神経系の病態や、運動麻痺、感覚障害、自律神経障害などの末梢神経系の病態を理解する。

【到達目標】 神経内科学疾患の病態と治療法を学び、臨床に役立つ基本的知識を習得する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	神経症候(高次脳機能障害、失語)	横山
2	神経症候(失認症、失行)	横山
3	神経症候(認知症)	横山
4	神経症候(運動失調)	横山
5	神経症候(意識障害)	横山
6	神経症候(嚥下障害・構音障害)	横山
7	神経症候(錐体路徴候)	横山
8	神経症候(錐体外路徴候)	横山
9	神経症候(感覚障害)	横山
10	神経症候(脳圧亢進・脳ヘルニア)	横山
11	神経症候(神経因性排尿障害)	横山
12	神経症候(末梢神経徴候)	横山
13	脳血管障害(分類)	横山
14	脳血管障害(症状、治療法)	横山
15	まとめ、質疑応答、演習問題解説	横山
16	定期試験	横山

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「PT・OT基礎から学ぶ 神経内科学ノート」(医歯薬出版)「病気が見える⑦脳・神経」(メディックメディア)

【参考書名】

【評価基準】 定期試験 100%

科目名： 臨床神経学(後期)

授業形態： 講義

担当教員：

横山 幸三

【授業概要】 高次脳機能障害、錐体路徴候、錐体外路徴候などの中枢神経系の病態や、運動麻痺、感覚障害、自律神経障害などの末梢神経系の病態を理解する。

【到達目標】 神経内科学疾患の病態と治療法を学び、臨床に役立つ基本的知識を習得する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	中枢神経変性疾患(皮膚・基底核)	横山
2	中枢神経変性疾患(脊髄小脳・脊髄)	横山
3	中枢神経変性疾患(中枢神経)	横山
4	中枢神経変性疾患(末梢神経)	横山
5	脳腫瘍(総論)	横山
6	脳腫瘍(各論)	横山
7	末梢神経障害(概念と分類)	横山
8	末梢神経障害(末梢性ニューロパチー)	横山
9	筋原性筋委縮疾患(筋ジストロフィー①)	横山
10	筋原性筋委縮疾患(筋ジストロフィー②)	横山
11	神経感染症疾患(総論)	横山
12	神経感染症疾患(各論)	横山
13	小児神経疾患	横山
14	神経疾患合併症	横山
15	まとめ、質疑応答、演習問題解説	横山
16	定期試験	横山

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「PT・OT基礎から学ぶ 神経内科学ノート」(医歯薬出版)「病気が見える⑦脳・神経」(メディックメディア)

【参考書名】

【評価基準】 定期試験 100%

科目名： 形成外科学(前期)

授業形態： 講義

担当教員： 赤坂 恵理

1単位

【授業概要】 教科書、パワーポイントを使用して説明する。

【到達目標】 口唇口蓋裂や発声などに直接関係する分野も多いので、基本的な形成外科の手技について理解できる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	形成外科学概論	赤坂
2	形成手術手技	赤坂
3	先天性疾患①	赤坂
4	先天性疾患②	赤坂
5	後天性疾患①	赤坂
6	後天性疾患②	赤坂
7	後天性疾患③、美容外科	赤坂
8	定期試験	赤坂

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「標準形成外科学 第6版」(医学書院)

【参考書名】

【評価基準】 定期試験90% 授業態度10%:積極的な授業への参加

【授業概要】 主にパワーポイントを使用し講義する。

【到達目標】 口腔・顎・顔面の解剖とその機能、疾患を理解する。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	歯・口腔・顎・顔面の構造と機能①	赤坂
2	歯・口腔・顎・顔面の構造と機能②	赤坂
3	歯・口腔・顎・顔面の構造と機能③	赤坂
4	歯・口腔・顎・顔面の構造と機能④	赤坂
5	歯・歯周組織の疾患および歯科医学的処置①	赤坂
6	歯・歯周組織の疾患および歯科医学的処置②	赤坂
7	歯・歯周組織の疾患および歯科医学的処置③	赤坂
8	歯・歯周組織の疾患および歯科医学的処置④	赤坂
9	口腔・顎・顔面の疾患①	赤坂
10	口腔・顎・顔面の疾患②	赤坂
11	口腔・顎・顔面の疾患③	赤坂
12	咀嚼・摂食・構音障害に対する歯科医学的治療法	赤坂
13	咀嚼障害	赤坂
14	摂食嚥下障害	赤坂
15	構音障害	赤坂
16	定期試験	赤坂

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「言語聴覚士のための臨床歯科医学・口腔外科学」(医歯薬出版)

【参考図書】

【評価基準】 定期試験90% 授業態度10%

科目名： 呼吸発声発語系の構造・機能・病態(前期)

授業形態： 講義

担当教員： 赤坂 恵理

1単位

【授業概要】 耳鼻咽喉科の教科書やパワーポイントなどを使用し、呼吸、発声、発語に関係する部位の解剖・生理や、疾患、治療法、予後などについて講義する。

【到達目標】 呼吸発声発語系を体系的に学び理解する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	発声発語系の構造・機能・病態①	赤坂
2	発声発語系の構造・機能・病態②	赤坂
3	咽頭、喉頭の構造と機能	赤坂
4	口腔・食道の構造と機能	赤坂
5	肺、気管支の構造と機能	赤坂
6	鼻腔・副鼻腔の構造と機能①	赤坂
7	鼻腔・副鼻腔の構造と機能②	赤坂
8	鼻腔・副鼻腔の構造と機能③	赤坂
9	鼻科学	赤坂
10	口腔・咽頭科学①	赤坂
11	口腔・咽頭科学②	赤坂
12	喉頭科学①	赤坂
13	喉頭科学②	赤坂
14	気管・食道科学①	赤坂
15	気管・食道科学②	赤坂
16	定期試験	赤坂

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「言語聴覚士のための基礎知識 耳鼻咽喉科」(医学書院)

【参考図書】

【評価基準】 定期試験90% 授業態度10%

科目名： 神経系の構造・機能・病態（前期）

授業形態： 講義

担当教員： 横山 幸三

1単位

【授業概要】 基本的な神経細胞の働き、中枢神経系や末梢神経系の構造および機能に関する基本的知識を習得し、臨床神経症候を理解する。

【到達目標】 解剖学、生理学、神経内科の基本的知識を再確認し、臨床神経の病態や症候を理解するのに必要な知識習得に努める。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	神経細胞の基本的働き(脱分極・活動電位、神経伝導・伝達)	横山
2	中枢神経系の構造(大脳)	横山
3	中枢神経系の働き(大脳皮質の機能局在、伝導路)	横山
4	中枢神経系の構造(脳幹、小脳)	横山
5	中枢神経系の働き(大脳皮質、脳幹)	横山
6	中枢神経系の構造(脊髄、脳脊髄液)	横山
7	中枢神経系の働き(小脳、脊髄、脳波)	横山
8	末梢神経系の構造(脳神経、脊髄神経、自律神経、神経繊維)	横山
9	末梢神経系の構造(運動神経、感覚神経、神経筋接合部)	横山
10	高次脳機能障害、運動麻痺	横山
11	運動失調、基底核障害	横山
12	感覚障害、脊髄障害	横山
13	末梢神経系の障害	横山
14	画像診断	横山
15	まとめ、質疑応答、演習問題解説	横山
16	定期試験	横山

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「病気がみえる⑦ 脳・神経」(メディックメディア)

【参考書名】 「PT・OT基礎から学ぶ 神経内科学ノート」(医歯薬出版)

【評価基準】 定期試験 100%

【授業概要】 高次脳機能障害の各種検査や、各種成人知能検査の実施方法及び結果の解釈を演習形式で学ぶ。

【到達目標】 各障害に対する検査法や手技を理解し、説明できるようになる。
各障害に対する検査を選択、実施することができる。
検査結果と病態を関連付けて考えることができる。
検査演習を通し、医療人としての身なりや言葉遣い、態度に配慮することができる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	コース立方体組み合わせテスト:演習	東
2	レーヴン色彩マトリックス検査:演習	東
3	各検査演習	東
4	BIT行動性無視検査	東
5	標準高次動作性検査:演習	東
6	各検査演習	東
7	知能とは、IQ(知能指数)とは	東
8	WAIS-R:演習①	東
9	WAIS-R:演習②	東
10	結果集計、評価分析	東
11	WAIS-III、WAIS-IV	東
12	即時記憶の検査、三宅式記銘力検査、Rey複雑図形検査:演習	東
13	ベントン視覚記銘検査:演習	東
14	ウェクスラー記憶検査、リバーミード行動記憶検査	東
15	認知症スクリーニング検査(MMSE、HDS-R、MoCA-J:演習)	東
16	定期試験	東

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に検査対象となる疾患の特徴などを復習する(0.5時間)
復習:検査の手順等その日の授業内容を振り返りながら、内容の理解に努める(0.5時間)

【教科書名】 各検査マニュアル

【参考書名】

【評価基準】 定期試験100%

【実務経験】 言語聴覚士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名： 生涯発達心理学(前期)

授業形態： 講義

担当教員： 松田 千鶴

1単位

【授業概要】 近年において発達とは、青年期までの上昇的变化と捉えるだけでなく、老後の変化も含めた「生涯発達」と考えられている。人生をより豊かに生きるために、「人間は生涯発達する」ことを理論的に、実証的に理解してみる。

【到達目標】 幅広い視野を持つことで、多くの実感を得る。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	発達理論・発達課題について	松田
2	児童期① 情緒的・社会的発達	松田
3	児童期② 自己概念	松田
4	児童期③ 児童虐待の視点から考察	松田
5	児童期④ いじめの視点から考察	松田
6	青年期① 身体・認知的発達	松田
7	青年期② 自我同一性(I)	松田
8	青年期③ 自我同一性(II)ビデオ学習	松田
9	成人期① 発達段階	松田
10	成人期② 身体・認知的発達	松田
11	成人期③ 自殺の視点から考察	松田
12	老年期の特徴	松田
13	死と死の受容	松田
14	まとめ 寄り添う事	松田
15	生涯発達心理学の復習	松田
16	定期試験	松田

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「生涯人間発達学」(三和書店)

【参考書名】

【評価基準】 定期試験 70% レポート・小テスト20% 授業態度10%:積極的な授業への参加

【授業概要】 人の行動には学習が密接に関係していると理解できるよう、学習心理学の歴史と学習心理学に関する様々な知見を紹介する。高次脳機能障害を中心とした情報処理過程である認知が、人の行動にどのような影響を与えているか認知心理学の知見を紹介する。また国家試験対策として学習認知心理学に関する演習問題に取り組む。

【到達目標】 認知機能への理解を深め、人を多面的に理解できるようになることを目指す。
人を含む動物の行動習得の基本となっている学習理論について理解を深めることを目指す。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	オリエンテーション/学習認知心理学とは	金子
2	感覚	金子
3	知覚(1)	金子
4	知覚(2)	金子
5	記憶(1)	金子
6	記憶(2)	金子
7	古典的条件づけ(1)	金子
8	古典的条件づけ(2)	金子
9	オペラント条件付け(1)	金子
10	オペラント条件付け(2)	金子
11	技能学習	金子
12	社会的学習・観察学習	金子
13	動機づけ	金子
14	情動	金子
15	小テスト	金子
16	概念	金子
17	知識の構造	金子
18	問題解決	金子
19	推論	金子
20	対人認知	金子
21	印象形成	金子
22	ステレオタイプ	金子
23	認知の偏り	金子
24	まとめ	金子
25	定期試験	金子

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「心理学」(東京大学出版会)「グラフィック学習心理学-行動と認知」(サイエンス社)および配布資料

【参考書名】 「心理学辞典」(有斐閣)

【評価基準】 定期試験 80%

小テスト 10%

授業態度 10%;①忘れ物(教科書・配付資料など)なく授業へ参加 ②私語や居眠りなどなく授業に参加

【授業概要】 心理学の歴史は、測定 of 歴史とも言われる。ある測定法の開発が新しい心理学的研究領域や研究パラダイムを切り開くこともある。研究の方法は、実証的なアプローチに重きを置くならば、「測定」の方法と不可分な関係にある。この講義では心理測定に関して、基本的な用語や概念を整理した上で、各種測定の方法やその意味や意義、また適応場面や適用方法について概説する。

【到達目標】 心理測定に関する基本的用語や概念を説明でき、各種「測定」場面で適切な測定方法を選択し、実施できる基礎を身につける。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	イントロダクション 心理学とは何か/心理測定法とは何か/研究の方法	神菌
2	精神物理学的測定法① 知覚世界/精神物理学/錯視/独立・従属変数	神菌
3	精神物理学的測定法② 閾値の測定/絶対閾と弁別閾/恒常誤差	神菌
4	テスト理論 標準化/測定の信頼性と妥当性/分散分析モデル/多変量解析	神菌
5	尺度構成法① 刺激操作:調整法/極限法/恒常法	神菌
6	尺度構成法② 反応測定:評定法/マグニチュード推定法	神菌
7	尺度構成法③ 多次元尺度構成法/SD法	神菌
8	研究デザインと研究パラダイム 調査法/実験法	神菌
9	定期試験	神菌

【授業外学修】 予習: 指定されたテキストをよく読んでおくこと。理解できなかった部分については、授業中に解決できるように準備しておくこと。
(各回1時間程度、計8時間以上)

復習: 授業内容を整理し、理解を深めること。(各回1時間程度、計8時間以上)
定期試験のために総復習、準備をすること。(15時間以上)

【教科書名】 「心理測定法への招待-測定から見た心理学入門-」(サイエンス社)

【参考図書】

【評価基準】 授業中に扱った心理測定法に関する基礎的知識及びその理解を得ていることを定期試験で表現できることを合格の目安とする。
定期試験100%(ただし授業の受講時間が全授業時の2/3に満たない者は試験を受けることができない)

【課題に対するフィードバック方法】 定期試験を含む課題のフィードバックは受講者の求めに応じて個別に対応する。

【質問・相談方法】 授業の前後で対応する。

科目名： 言語聴覚障害診断学Ⅰ(後期)

授業形態： 講義・演習

担当教員： 木村隆・島屋敷英修・東早代・河野真紀・木佐貫太陽
1単位

【授業概要】 臨床現場では本検査を実施する前にスクリーニング検査を通して症例の大きな言語病理学的診断名を推察する。
スクリーニング検査についての目的及び概要について説明し、その後、学生が作成したオリジナル検査を実施する。

【到達目標】 様々な症例の多い臨床場面を意識しながら、自分の担当症例にあった評価となるよう臨機応変な対応がとれるようになる。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	スクリーニング検査とは	木村
2	成人のスクリーニング検査の概要	木村
3	ST室で行える成人スクリーニング検査について	木村
4	ベッドサイドで行える成人スクリーニング検査について	島屋敷
5	ベッドサイドスクリーニング検査 観察から解ること	島屋敷
6	ベッドサイドスクリーニング検査 評価と解釈	島屋敷
7	医療と福祉によるアセスメントの違いについて	河野
8	小児スクリーニング項目の視点①	河野
9	小児スクリーニング項目の視点②	河野
10	保護者からの聞き取りについて	河野
11	小児スクリーニングの実際(評価)	河野
12	小児スクリーニングの実際(解釈)	河野
13	スクリーニング検査作成1	木佐貫
14	スクリーニング検査作成2	木佐貫
15	スクリーニング検査作成3	全専任教員
16	実技試験(成人・小児)	全専任教員

【授業外学修】 予習・講義に臨む前に該当する教科書の単元を読む(0.5時間)

復習:その日の授業内容を振り返りながら、内容の理解を理解し検査を作成する(1時間)

【教科書名】 「ST評価ポケット手帳」(ヒューマンプレス) 「言語聴覚療法臨床マニュアル 第3版」(協働医書出版社)

「言語聴覚士のための臨床実習テキスト(小児編)」(建帛社)

「言語聴覚士のための臨床実習テキスト(成人編)」(建帛社)

【参考書名】 独自の資料

【評価基準】 実技試験100%

【実務経験】 言語聴覚士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】 脳の機能を理解し、失語症に伴い出現する基本的な病態とメカニズムを学ぶ。
失語症の古典的分類を学ぶ。

【到達目標】 失語症の症状を理解し、鑑別するための基礎力を身に付ける。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	失語症Ⅰの復習と見学実習のフィードバック	島屋敷
2	失語症の症状(5) 発語失行	島屋敷
3	失語症の症状(6) 発語失行と構音障害	島屋敷
4	失語症の症状(7) 発語失行と錯語	島屋敷
5	失語症の症状(8) ジャルゴン	島屋敷
6	失語症の症状(9) プロソディ障害	島屋敷
7	失語症の症状(10) 新造語	島屋敷
8	失語症の症状(11) 保続	島屋敷
9	失語症の症状(12) 復唱・音読の障害	島屋敷
10	失語症の症状(13) 錯語	島屋敷
11	失語症の症状(14) 書字・書字の障害	島屋敷
12	失語症の症状(15) その他の障害	島屋敷
13	失語症を取り巻く障害	島屋敷
14	失語症のタイプ分類について(1)	島屋敷
15	失語症のタイプ分類について(2)	島屋敷
16	定期試験	島屋敷

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に指示されたテーマについて自分の考えを持つ(0.5時間)

復習:その日の授業内容についてノートをみながら振り返り確認をする(1時間)

【教科書名】 「言語聴覚療法シリーズ4失語症 改訂版第2版」(建帛社)

「脳卒中後のコミュニケーション障害 改訂2版」(協同医書出版株式会社)

【参考書名】 「標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚療法学 別巻 脳画像」(医学書院)

【評価基準】 定期試験 100%

【実務経験】 言語聴覚士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】 1年、2年前期で学んだ失語症のメカニズムや病態の知識を基に検査、評価を学ぶ。

【到達目標】 失語症の基礎知識を基に検査を理解し、検査の実施および結果分析が出来るようになる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	失語症Ⅱの復習と症状理解の確認	島屋敷
2	SLTAの検査法(1) 失語症検査の意義	島屋敷
3	SLTAの検査法(2) 聴覚的理解①	島屋敷
4	SLTAの検査法(3) 聴覚的理解②	島屋敷
5	SLTAの検査法(4) 言語表出①	島屋敷
6	SLTAの検査法(5) 言語表出②	島屋敷
7	SLTAの検査法(6) 言語表出③	島屋敷
8	SLTAの検査法(7) 文字の理解①	島屋敷
9	SLTAの検査法(8) 文字の理解②	島屋敷
10	SLTAの検査法(9) 文字表出①	島屋敷
11	SLTAの検査法(10) 文字表出② 計算	島屋敷
12	SLTAの検査法 検査結果報告書の書き方①	島屋敷
13	SLTAの検査法 検査結果報告書の書き方②	島屋敷
14	SLTA-ST保持検査の概要	島屋敷
15	SLTA-STの活用	島屋敷
16	定期試験	島屋敷

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に今回の検査のマニュアルを熟読する(0.5時間)

復習:授業で行った下位テストを習熟するため練習を行う(1時間)

【教科書名】 「言語聴覚療法シリーズ4失語症 改訂版第2版」(建帛社)

「標準失語症検査マニュアル 第2版」(新興医学出版社)

【参考書名】 「標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚療法学 別巻 脳画像」(医学書院)

【評価基準】 定期試験 100%

【実務経験】 言語聴覚士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】 高次脳機能障害の原因や特性、メカニズムを学ぶ。
言語聴覚療法を実施するために必要となる高次脳機能障害の知識と評価法を身に付ける。

【到達目標】 高次脳機能障害の症状や特性を学び、説明できるようになる。
各障害に対する検査法や手技を理解することができるようになる。
各障害に対する検査を選択、実施することができるようになる。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	高次脳機能障害総論：高次脳機能障害とは	東
2	視空間性障害(1) 半側空間無視	東
3	視空間性障害(2) 構成障害	東
4	視空間性障害の評価：スクリーニング検査等各種検査	東
5	失行	東
6	失行の評価：スクリーニング検査等各種検査	東
7	失認	東
8	失認の評価：スクリーニング検査等各種検査	東
9	記憶とは	東
10	記憶の障害	東
11	記憶障害(映像学習：DVD鑑賞)	東
12	記憶障害の評価①：スクリーニング検査等各種検査	東
13	記憶障害の評価②：スクリーニング検査等各種検査	東
14	認知症	東
15	認知症の評価：スクリーニング検査等各種検査	東
16	定期試験	東

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に該当する教科書の単元を読む(0.5時間)
復習：その日の授業内容を振り返りながら、内容の理解に努める(0.5時間)

【教科書名】 「標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学 第3版」(医学書院)

【参考書名】 「病気がみえる7 脳・神経」(メディックメディア)

【評価基準】 定期試験 100%

【実務経験】 言語聴覚士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】 高次脳機能障害の原因や特性、メカニズムを学び、症状に対する訓練や支援方法（社会資源）などを学ぶ。
高次脳機能障害の特徴から、言語聴覚士の役割、リハビリテーション、他職種との繋がりを理解する。

【到達目標】 高次脳機能障害の症状や特性を学び、説明できるようになる。
各障害に対する検査法や手技を理解することができるようになる。
各障害に対する検査を選択、実施することができるようになる。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	前頭葉機能について、注意機能の種類	東
2	遂行機能障害、社会的行動障害 他	東
3	前頭葉機能障害の評価：WCST、ストループテスト、TMT-J	東
4	前頭葉機能障害の評価：かなひろいテスト、語流暢課題、ハノイの塔、ボンスフォード、FAB	東
5	FAB（演習）、CAT（概要説明、演習）	東
6	CAT（演習、解釈）、BADS	東
7	脳外傷	東
8	高次脳機能障害の評価	東
9	視空間性障害（半側空間無視）の対応、訓練	東
10	失行・失認の対応、リハビリテーション	東
11	記憶障害の対応、リハビリテーション	東
12	認知症の対応、リハビリテーション	東
13	前頭葉機能障害の対応、リハビリテーション	東
14	高次脳機能障害の復学、復職、集団リハビリテーションについて	東
15	在宅・社会復帰について（社会資源）	東
16	定期試験	東

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に該当する教科書の単元を読む（0.5時間）
復習：その日の授業内容を振り返りながら、内容の理解に努める（0.5時間）

【教科書名】 「標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学」（医学書院）

【参考書名】 「病気がみえる7 脳・神経」（メディックメディア）

【評価基準】 定期試験100%

【実務経験】 言語聴覚士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】 自閉スペクトラム症について、その発達特性だけでなく、評価方法や支援方法についても学ぶ。知能検査・認知検査の理論的背景や概要について学ぶ(できるだけ最新の情報を提供する)

【到達目標】 自閉スペクトラム症について、原因と症状、評価方法、支援方法を理解し、対応できるようになる。心理検査の理論的背景、概要について理解する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	オリエンテーション/言語発達障害の臨床について	田邊
2	言語発達障害の評価/知能・認知について	田邊
3	知能検査の理論的背景(CHC理論と知能検査)	田邊
4	認知検査の理論的背景(ルリア理論と認知検査)	田邊
5	認知検査(KABC-II)について	田邊
6	検査結果のまとめと評価、アセスメント/バッテリー	田邊
7	自閉スペクトラム症(広汎性発達障害)とは	田邊
8	自閉スペクトラム症を説明する認知理論(社会性)	田邊
9	自閉スペクトラム症を説明する認知理論(認知機能)	田邊
10	自閉スペクトラム症の言語の特徴/言語発達の評価と支援	田邊
11	自閉スペクトラム症の評価(診断・評価ツール)	田邊
12	TEACCH自閉症プログラムについて①(理論や概要)	田邊
13	TEACCH自閉症プログラムについて②(手法や評価方法)	田邊
14	自閉スペクトラム症の行動上の問題(応用行動分析的アプローチの応用)	田邊
15	自閉スペクトラム症の支援(認知特性を踏まえた支援/AAC)	田邊
16	定期試験	田邊

【授業外学修】 予習：1年時の心理学・言語学・障害学に関連することが多くあるので、充分復習し授業に臨むこと。
事前に配布された資料がある場合は、しっかり読み込んでおくこと
復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 なし(参考資料を配布する)

【参考図書】 「標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 第3版」(医学書院)

【評価基準】 定期試験80% 授業態度20%:始語や居眠りなどなく、授業に参加

【授業概要】 各種検査を用いた子どもへの評価について学ぶ。
各種検査の目的と方法について、実際に検査道具に触れながら演習を行う。

【到達目標】 実際の臨床場面にて使用し、子どもの状態把握のための評価が行えるよう、知識と技術を高める。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	アセスメントとは	松田
2	行動観察からの評価(遊び場面、課題時、検査時)	松田
3	国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査の概要	松田
4	国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査の記録方法と演習①	松田
5	国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査の記録方法と演習②	松田
6	国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査の記録方法と演習③	松田
7	国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査の分析	松田
8	質問-応答関係検査の概要	松田
9	L-Cスケールの概要	河野
10	L-Cスケールの記録方法	河野
11	L-Cスケールの結果分析	河野
12	LCSAの概要①	河野
13	LCSAの概要②	河野
14	PVT-Rの概要	河野
15	遠城寺乳幼児分析的発達検査法の概要	河野

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習:手順や手技などを、確認しなおす。(約1時間)

【教科書名】 「遠城寺式乳幼児分析的発達検査法」(慶応義塾大学出版社)

【参考書名】 各検査のマニュアル

【評価基準】 授業態度 100%

【実務経験】 言語聴覚士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名： 脳性麻痺 I (前期)

授業形態： 講義

担当教員：

河野 真紀

1単位

【授業概要】 脳性麻痺の概念と定義を踏まえながら、それに伴う言語発達障害の特徴を理解する。
脳性麻痺の特徴を理解し、情報収集と評価方法を学ぶ。

【到達目標】 脳性麻痺の基礎知識を学習し、障害の特徴を理解する。
脳性麻痺の言語発達障害と摂食嚥下障害の特徴を理解し、各種検査方法や評価方法を学ぶ。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	脳性麻痺の概念と定義	河野
2	正常運動発達	河野
3	脳性麻痺の運動特徴	河野
4	脳性麻痺の基礎知識	河野
5	合併症から派生する問題	河野
6	言語発達障害	河野
7	言語発達の遅れ	河野
8	摂食・嚥下障害1	河野
9	摂食・嚥下障害2	河野
10	発声・発語の障害	河野
11	評価の基本的考え方	河野
12	情報収集	河野
13	評価のための行動観察と各種検査	河野
14	摂食・嚥下機能の評価	河野
15	発声・発語器官の評価	河野
16	定期試験	河野

【授業外学修】 予習：次回講義予定の教科書のページを読んでおくこと(0.5時間)
復習：講義資料ノート等のポイントを確認し、理解する振り返りを行うこと(0.5時間)

【教科書名】 「改訂 言語発達障害Ⅲ」(建帛社)

【参考書名】

【評価基準】 定期試験 100%

【実務経験】 言語聴覚士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名： 脳性麻痺Ⅱ(後期)

授業形態： 講義

担当教員： 河野 真紀

1単位

【授業概要】 脳性麻痺の言語評価、それに伴う言語発達障害の訓練について学ぶ。
脳性麻痺の摂食・嚥下評価を実施、それに伴う摂食・嚥下の訓練について学ぶ。

【到達目標】 脳性麻痺の言語評価を理解し、それに伴う言語発達障害の訓練計画を考える。
脳性麻痺の摂食・嚥下評価を理解し、それに伴う摂食・嚥下訓練の計画を考える。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	発達を促す方法	河野
2	家庭の役割	河野
3	摂食・嚥下訓練の訓練・指導	河野
4	発声・発語意欲を高める	河野
5	チームアプローチ	河野
6	AAC	河野
7	重症心身障害児(者)とは	河野
8	重症心身障害児(者)への支援	河野
9	定期試験	河野

【授業外学修】 予習:次回講義予定の教科書のページを読んでおくこと(0.5時間)
復習:講義資料ノート等のポイントを確認し、理解する振り返りを行うこと(0.5時間)

【教科書名】 「改訂 言語発達障害Ⅲ」(建帛社)

【参考書名】

【評価基準】 定期試験 100%

【実務経験】 言語聴覚士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】 学習障害児を理解し、言語聴覚療法でのアプローチを考える。
言語とコミュニケーションの問題を考え、学習障害児への支援を学ぶ。

【到達目標】 学習障害児と言語障害の関係を理解し、言語聴覚療法での支援を理解する。
言語発達障害児と学習障害児の関連性を理解する。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	学習障害の定義とタイプ	河野
2	発達性読み書き障害とは	河野
3	発達性読み書き障害の症状	河野
4	発達性読み書き障害の原因	河野
5	発達性読み書き障害の評価	河野
6	発達性読み書き障害の支援	河野
7	発達性読み書き障害の症例	河野
8	計算障害・算数障害	河野
9	特異的言語発達障害とは	河野
10	特異的言語発達障害の特徴	河野
11	特異的言語発達障害の評価	河野
12	診断年齢別の対応	河野
13	各種検査	河野
14	学習障害児の支援プログラム	河野
15	家庭生活・学習環境づくりと学校生活における支援	河野
16	定期試験	河野

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(0.5時間)
復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(0.5時間)

【教科書名】 「子どもの学びと向き合う医療スタッフのためのLD診療・支援入門」(診断と治療社)

【参考書名】 「言語発達障害学」(医学書院) 「言語治療ハンドブック」(医歯薬出版)

【評価基準】 定期試験100%

【実務経験】 言語聴覚士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名： 音声障害学(後期)

授業形態： 講義

担当教員： 石原 禎人

1単位

【授業概要】 発声器官の解剖、生理を理解し、正常な発声のメカニズムを学ぶ。
音声障害の種類を学び、それぞれの病態や特性に関する知識を身につける。
音声障害の評価や治療方法を実技を通して学ぶ。
講義で学んだ知識をもとに、実際の臨床や言語聴覚士国家試験に対応できる応用力を身につける。

【到達目標】 講義で実際の臨床につながる基礎知識を理解し、実技・グループワークを通して、病態・評価・問題点・治療を一連の流れとして考えることのできる応用力を身につける。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	発声器官の基礎解剖	石原
2	発声のメカニズム	石原
3	音声障害の分類	石原
4	疾患学1	石原
5	疾患学2	石原
6	検査及び診断1	石原
7	検査及び診断2	石原
8	検査及び診断3	石原
9	治療学1医学的対応	石原
10	治療学2音声治療の手技①	石原
11	治療学3音声治療の手技②	石原
12	治療学4音声治療の手技③	石原
13	無喉頭音声のリハビリテーション	石原
14	症例検討グループワーク①	石原
15	症例検討グループワーク②	石原
16	定期試験	石原

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「言語聴覚療法シリーズ14 音声障害」(建帛社)「STのための音声障害診療マニュアル」(インテルナ出版)

【参考書名】

【評価基準】 定期試験90% 小テスト10%

【授業概要】 発声発語器官の運動障害により生じる構音障害についてそのメカニズム、評価、訓練を中心に授業を実施する。
運動性構音障害は成人言語障害の中で最も頻度の高い障害のため、臨床時にその障害をしっかりと理解した上で、評価、問題点抽出及びGoal設定が出来るようにする。

【到達目標】 運動障害の特徴と発話障害を結びつけながら、運動性構音障害を理解できるようになる。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	運動性構音障害の歴史、定義、呼称(なぜDysarthriaと呼ぶのか)	木村
2	運動性構音障害のメカニズム(呼吸-発声-共鳴-構音)	木村
3	運動性構音障害の原因疾患1 (錐体路障害)	木村
4	運動性構音障害の原因疾患2 (下位運動ニューロン障害)	木村
5	運動性構音障害の原因疾患3 (錐体外路障害:運動低下性)	木村
6	運動性構音障害の原因疾患4 (錐体外路障害:運動過多性)	木村
7	運動性構音障害の原因疾患5 (小脳及び小脳路障害)	木村
8	運動性構音障害の原因疾患6 (運動多重障害)	木村
9	運動障害に基づいたDysarthriaのタイプ分類	木村
10	運動性構音障害の評価(標準ディサースリア検査(以下AMSD)の概要)	木村
11	発声発語器官の機能評価1 (AMSD検査 呼吸機能の評価1)	木村
12	発声発語器官の機能評価2 (AMSD検査 呼吸機能の評価2)	木村
13	発声発語器官の機能評価3 (AMSD検査 発声機能の評価)	木村
14	発声発語器官の機能評価4 (AMSD検査 共鳴機能の評価)	木村
15	発声発語器官の機能評価5 (顔面神経麻痺と舌下神経麻痺の神経解剖)	木村
16	定期試験	木村

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に該当する教科書の単元を読む(0.5時間)

復習:その日の授業内容を振り返りながら、内容の理解に努める(0.5時間)

【教科書名】 「ディサースリア臨床標準テキスト」(医歯薬出版) 「標準ディサースリア検査」(インテルナ出版)

【参考書名】 独自の資料

【評価基準】 定期試験100%

【実務経験】 言語聴覚士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】 発声発語器官の運動障害により生じる構音障害についてそのメカニズム、評価、訓練を中心に授業を実施する。運動性構音障害は成人言語障害の中で最も頻度の高い障害のため、臨床時にその障害をしっかりと理解した上で、評価、問題点抽出及びGoal設定が出来るようにする。

【到達目標】 運動障害の特徴と発話障害を結びつけながら、運動性構音障害を理解できるようになる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	発声発語器官の機能評価6（AMSD検査 口腔構音機能：運動範囲1）	木村
2	発声発語器官の機能評価7（AMSD検査 口腔構音機能：運動範囲2）	木村
3	発声発語器官の機能評価8（AMSD検査 口腔構音機能：運動速度1）	木村
4	発声発語器官の機能評価9（AMSD検査 口腔構音機能：運動速度2）	木村
5	発声発語器官の機能評価10（AMSD検査 口腔構音機能：筋力）	木村
6	運動性構音障害の総合評価1（AMSD検査 総合練習1）：ロールプレイにて	木村
7	運動性構音障害の総合評価2（AMSD検査 総合練習2）：ロールプレイにて	木村
8	SLTA-ST検査：発声発語検査・知覚検査・口腔顔面の随意動作検査	木村
9	発話の評価1（AMSD：話しことばの評価～発話明瞭度、自然度、発話速度の評価）	木村
10	発話の評価2（AMSD：発話特徴）	木村
11	発話の評価3（発話特徴抽出検査1）	木村
12	発話の評価4（AMSDと発話特徴抽出検査のサンプルテープ聞き取り1）	木村
13	発話の評価5（AMSDと発話特徴抽出検査のサンプルテープ聞き取り2）	木村
14	SLTA-ST検査（単音節・単語）及びAMSD発話検査の演習	木村
15	運動性構音障害の訓練概要	木村
16	定期試験	木村

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に該当する教科書の単元を読む（0.5時間）

復習：その日の授業内容を振り返りながら、内容の理解に努める（0.5時間）

【教科書名】 「ディサースリア臨床標準テキスト」（医歯薬出版）「標準ディサースリア検査」（インテルナ出版）

【参考書名】 独自の資料

【評価基準】 定期試験100%

【実務経験】 言語聴覚士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】 機能性構音障害についてのリハビリテーションに必要な知識・技術を身につける。
機能性構音障害の構音検査結果から、問題点を抽出・評価する。

【到達目標】 機能性構音障害への理解を深め、評価から訓練に対応できる臨床力まで身につける。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	構音障害について	松田
2	構音障害に関わる解剖と生理	松田
3	日本語の語音について	松田
4	構音の獲得時期について	松田
5	機能性構音障害の定義	松田
6	発達上の音の誤りについて	松田
7	機能性構音障害の誤り音について（置換、省略、歪み）	松田
8	機能性構音障害の誤り音について（異常構音①）	松田
9	機能性構音障害の誤り音について（異常構音②）	松田
10	機能性構音障害の特徴	松田
11	構音と食事の関連性について	松田
12	機能性構音障害の評価	松田
13	新版 構音検査の概要について	松田
14	構音検査の演習（手順の確認）	松田
15	構音検査の演習（記録の仕方）	松田
16	定期試験	松田

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。（約1時間）
復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。（約1時間）

【教科書名】 「改訂 機能性構音障害」（建帛社）

【参考書名】 独自の資料

【評価基準】 定期試験100%

【実務経験】 言語聴覚士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名： 機能性構音障害Ⅱ（前期）

授業形態： 講義

担当教員：

松田 知里

1単位

【授業概要】 構音訓練の目的、適応について学ぶ。
構音訓練の原理について理解する。

【到達目標】 機能性構音障害の理解を深め、評価から訓練に適応できる臨床力を身につける。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	構音訓練の目的と訓練適応、訓練の原理について	松田
2	系統的構音訓練について	松田
3	構音訓練の演習（声門破裂音、口蓋化構音）	松田
4	構音訓練の演習（鼻咽腔構音、側音化構音）	松田
5	音の弁別・同定訓練	松田
6	音韻の分解と音韻数の把握、音の位置の把握	松田
7	教材及び報酬について	松田
8	家族指導について	松田
9	定期試験	松田

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。（約1時間）

復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。（約1時間）

【教科書名】 「改訂 機能性構音障害」（建帛社）

【参考書名】 独自の資料

【評価基準】 定期試験100%

【実務経験】 言語聴覚士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

- 【授業概要】 ①器質性構音障害(口唇口蓋裂を中心として)の治療・訓練のみでなく、年齢に応じた評価や検査、結果の見方、それらに基づいた今後の方針について学ぶ。また、患児(者)の心理的・社会的に支援・解決するチームアプローチを学ぶ。(河野)
②本邦におけるがん対策の歴史及びがん患者リハビリテーションについて概説する。がんやその治療に伴う発声発語器官の機能・形態障害について学習し、これらを原因とする器質性構音障害の検査・評価・対応及び他職種連携について理解を深める。(田場)

- 【到達目標】 ①器質性構音障害を有する方への一貫した治療・医療・支援方法を身に着け、適切なアプローチを実施できるようになる。(河野)
②頭頸部がん、特に口腔・中咽頭がん術後に生じる器質性構音障害の特性について理解する。
頭頸部がんの治療を理解し、言語聴覚士が行うべき評価・訓練について具体的に説明することができる。
疾患特性に応じ、対象者を多面的に捉え、チーム医療における言語聴覚士の役割について考えることができる。(田場)

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	口唇口蓋裂のメカニズムと言語臨床に必要な基礎知識	河野
2	鼻咽腔閉鎖機能不全に関する疾患	河野
3	医学的アプローチ、言語管理	河野
4	構音の特徴と検査・評価	河野
5	言語治療、鼻咽腔閉鎖機能不全の言語治療	河野
6	言語治療の方針と内容	河野
7	チームアプローチ	河野
8	器質性構音障害のまとめ	河野
9	本邦におけるがん対策の歴史、頭頸部解剖生理	田場
10	がん患者リハビリテーション1	田場
11	がん患者リハビリテーション2	田場
12	頭頸部がんの検査および治療、口腔・中咽頭がん術後器質性構音障害の特徴	田場
13	器質性構音障害に対する評価	田場
14	器質性構音障害に対する訓練の実際1(補綴・他職種連携を含む)	田場
15	器質性構音障害に対する訓練の実際2(社会保障制度を含む)、講義のまとめ	田場
16	定期試験	河野・田場

- 【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約0.5時間)
復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約0.5時間)

【教科書名】 「言語聴覚療法シリーズ8 器質性構音障害」(建帛社)

【参考図書】 「口蓋裂の言語臨床 第3版」(医学書院)「口腔・中咽頭がんのリハビリテーション」(医歯薬出版)
「がんのリハビリテーションガイドライン」(金原出版)
「がんのリハビリテーションベストプラクティス」(金原出版)

【評価基準】 定期試験100%(河野)

定期試験80% 授業態度20% :積極的な授業への参加(田場)

【実務経験】 言語聴覚士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加(河野)

【授業概要】 発声発語器官の運動障害により生じることの多い摂食嚥下障害についてそのメカニズム、評価、訓練を中心に授業を実施する。教材もDVDやビデオなど多くの動画を用いてよりリアルに授業を展開する。

【到達目標】 臨床の中でリスクの高い摂食嚥下障害者への対応について理解できるようになる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	摂食・嚥下のメカニズム1（先行期・準備期・口腔期・咽頭期・食道期）	木村
2	摂食・嚥下のメカニズム2（プロセスモデルについて）	木村
3	嚥下に関する神経、筋、嚥下中枢と知覚情報、嚥下反射のメカニズム	木村
4	摂食・嚥下機能の発達と成熟	木佐貫
5	摂食・嚥下障害者の持つ問題点と各stageにおける問題点	木村
6	誤嚥と喉頭流入の違い及びそのタイプ 摂食・嚥下障害の原因別タイプ分類	木村
7	小児の摂食嚥下障害	木佐貫
8	摂食・嚥下障害を起こす病態1（球麻痺症状を中心に）	木村
9	摂食・嚥下障害を起こす病態2（仮性球麻痺症状を中心に）	木村
10	摂食・嚥下障害の評価1（問診・質問紙法・食事場面観察項目）	木村
11	摂食・嚥下障害の評価2（理学的検査・神経学的検査・OHAT-J）	木村
12	摂食・嚥下障害の評価3（水飲みテスト・RSST）演習	木村
13	摂食・嚥下障害の評価4（MWST・FT・嚥下誘発検査・咀嚼能力機能検査）演習	木村
14	摂食・嚥下障害の評価5（頸部聴診法）	木村
15	摂食・嚥下障害の評価6（頸部聴診法）演習	木村
16	定期試験	木村

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に該当する教科書の単元を読む（0.5時間）
復習：その日の授業内容を振り返りながら、内容の理解に努める（0.5時間）

【教科書名】 「摂食嚥下ビジュアルリハビリテーション」（Gakken）
「摂食嚥下 ポケットマニュアル 第3版」（医歯薬出版）

【参考書名】 「摂食嚥下障害学 第2版」（医学書院）、独自の資料

【評価基準】 定期試験100%

【実務経験】 言語聴覚士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】 発声発語器官の運動障害により生じることの多い摂食嚥下障害についてそのメカニズム、評価、訓練を中心に授業を実施する。教材もDVDやビデオなど多くの動画を用いてよりリアルに授業を展開する。

【到達目標】 臨床の中でリスクの高い摂食嚥下障害者への対応について理解できるようになる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	摂食・嚥下障害の評価（嚥下造影検査の概要:VF）	木村
2	摂食・嚥下障害の評価（嚥下造影検査:読影1）	木村
3	摂食・嚥下障害の評価（嚥下造影検査:読影2）	木村
4	摂食・嚥下障害の評価（嚥下造影検査:読影3）	木村
5	摂食・嚥下障害の評価（内視鏡検査の概要:VE）	木村
6	摂食・嚥下障害の評価（内視鏡検査:読影）	木村
7	摂食・嚥下障害の評価（その他の検査法:パルスオキシメーター、エコー、筋電図など）	木村
8	摂食・嚥下障害の総合評価	木村
9	小児摂食嚥下障害の評価	木村
10	摂食時のポジショニングについて（30度仰臥位+頸部前屈位のすすめ）	木村
11	代償的栄養法1（経管栄養法・PEG・PEJ・TPN・PPN 等）	木村
12	代償的栄養法2（経管栄養法・PEG・PEJ・TPN・PPN 等）	木村
13	口腔リハビリテーション1（口腔ケアについて）	木村
14	口腔リハビリテーション2（口腔ケア及び顔面マッサージ実技）	木村
15	口腔リハビリテーション3（ロールプレイにて実技及び必要備品について）	木村
16	定期試験	木村

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に該当する教科書の単元を読む(0.5時間)
復習:その日の授業内容を振り返りながら、内容の理解に努める(0.5時間)

【教科書名】 「摂食嚥下ビジュアルリハビリテーション」(Gakken)
「摂食嚥下 ポケットマニュアル 第3版」(医歯薬出版)

【参考書名】 「摂食嚥下障害学 第2版」(医学書院)、独自の資料

【評価基準】 定期試験 100%

【実務経験】 言語聴覚士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】 小児聴覚障害の概要、医学的基礎、臨床支援などについて学ぶ。評価・訓練・指導について具体的に学ぶ。保護者に対する支援方法を学び、聴覚障害児の言語獲得やコミュニケーション環境について学ぶ。

【到達目標】 小児聴覚障害の概要、医学的基礎を理解し、各種検査や評価が出来るようになる。聴覚障害児の聴覚活用・言語獲得・コミュニケーションに対する具体的支援が出来るようになる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	聴覚障害の概要	河野
2	聴覚障害とライフステージ	河野
3	難聴と言語機能	河野
4	各種聴覚検査	河野
5	小児の聴覚検査①	河野
6	小児の聴覚検査②	河野
7	小児の聴覚検査③	河野
8	補聴器	河野
9	人工内耳	河野
10	コミュニケーション指導	河野
11	小児聴覚障害の指導の概要（乳児期、幼児期初期、幼児期中期）	河野
12	小児聴覚障害の指導の概要（幼児期後期、児童期、青年期）	河野
13	低年齢児向けの聴能、言語訓練（音遊び、声出し遊び、ことば遊び）	河野
14	低年齢児向けの聴能、言語訓練（文字遊び、絵本遊び、絵日記遊び）	河野
15	まとめ	河野
16	定期試験	河野

【授業外学修】 予習：次回講義予定の教科書のページを読んでおくこと（0.5時間）
復習：講義資料ノート等のポイントを確認し、理解する振り返りを行うこと（0.5時間）

【教科書名】 「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学」（医学書院）
「言語聴覚療法シリーズ5 聴覚障害Ⅰー基礎編」（建帛社） 「言語聴覚療法シリーズ5 聴覚障害Ⅰー臨床編」（建帛社）

【参考書名】 「聴覚検査の実際」（南山堂）

【評価基準】 定期試験100%

【実務経験】 言語聴覚士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】 小児聴覚障害の概要、医学的基礎、各種検査や評価などについて学ぶ。評価・訓練・指導については具体的に学ぶ。

【到達目標】 小児聴覚障害の概要、医学的基礎を理解し、各種検査や評価が出来るようになる。聴覚障害児の言語獲得・コミュニケーションに対する具体的な支援が出来るようになる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	言語獲得とその過程	河野
2	小児聴覚障害の原因	河野
3	乳幼児聴覚検査	河野
4	小児聴覚障害	河野
5	小児聴覚障害児の発達	河野
6	小児聴覚障害の評価（関連情報の収集）	河野
7	小児聴覚障害の評価（発達の評価）	河野
8	小児聴覚障害の評価（コミュニケーション能力、行動、情緒、パーソナリティ、社会性など）	河野
9	小児聴覚障害の評価（言語能力、聴取能力の評価）	河野
10	小児聴覚障害の評価（発声発語能力の評価）	河野
11	小児聴覚障害の指導、訓練（養育者への指導）	河野
12	小児聴覚障害の指導の概要（乳児期、幼児期初期、幼児期中期）	河野
13	小児聴覚障害の指導の概要（乳幼児後期、児童期、青年期）	河野
14	低年齢児向けの聴能、言語訓練（音遊び、声出し遊び、ことば遊び）	河野
15	低年齢児向けの聴能、言語訓練（文字遊び、絵本遊び、絵日記遊び）	河野
16	定期試験	河野

【授業外学修】 予習：次回講義予定の教科書のページを読んでおくこと（0.5時間）

復習：講義資料ノート等のポイントを確認し、理解する振り返りを行うこと（0.5時間）

【教科書名】 「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学」（医学書院）

「言語聴覚療法シリーズ5 聴覚障害Ⅰ-基礎編」（建帛社） 「言語聴覚療法シリーズ5 聴覚障害Ⅰ-臨床編」（建帛社）

【参考書名】 「聴覚検査の実際」（南山堂）

【評価基準】 定期試験100%

【実務経験】 言語聴覚士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】 成人聴覚障害を評価するうえで必要な検査の種類や特性を学び、実際に機器に触れ操作する。
成人聴覚障害の病態、機器の特性、リスク管理など検査に必要な項目を十分理解したうえで演習を行う。

【到達目標】 成人聴力検査の種類とそれぞれの検査の特性を理解し、具体的に述べるようになる。
機器の特性、検査の流れを理解し、聴覚検査を実施することができるようになる。
検査結果と病態を関連付けて考えることができるようになる。
検査演習を通し、医療人としての身なりや言葉遣い、態度に配慮することができるようになる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	聴覚系の検査法の種類と適応	東
2	純音聴力検査(1) 概要	東
3	純音聴力検査(2) 概要・実技	東
4	純音聴力検査(3) 演習	東
5	純音聴力検査(4) 演習	東
6	純音聴力検査実技演習まとめ(1)	東
7	純音聴力検査実技演習まとめ(2)	東
8	自記オーディオメトリー	東
9	閾値上の聴覚検査(1) SISI検査、ABLB検査:演習	東
10	閾値上の聴覚検査(2)	東
11	語音聴力検査(1) 概要	東
12	語音聴力検査(2) 演習	東
13	語音聴力検査(3) 演習	東
14	インピーダンスオーディオメトリー	東
15	耳音響放射検査、聴性誘発反応検査	東
16	定期試験	東

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(0.5時間)
復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(0.5時間)

【教科書名】 「聴覚検査の実際」(南山堂)

「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 第3版」(医学書院)

【参考書名】 「言語聴覚療法シリーズ5聴覚障害Ⅰ-基礎編」(建帛社)

「病気がみえる 耳鼻咽喉科」(メディックメディア)

【評価基準】 定期試験100%

【実務経験】 言語聴覚士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】 成人聴覚障害の特徴から、言語聴覚士の役割、リハビリテーション、他職種との繋がりを理解する。
言語聴覚士として勤務するにあたり要求される知識、応用力を養う。

【到達目標】 成人聴覚障害の全体的な評価の視点や、聴覚補償機器の種類や特性を述べるができるようになる。
成人聴覚障害に対する訓練や支援方法(社会資源)などを理解することができるようになる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	聴覚補償機器(補聴器・人工内耳)	東
2	人工内耳、聴覚補償システム、中途失聴	東
3	疾患別対応、リハビリテーションの3要素	東
4	成人難聴の評価	東
5	成人難聴の訓練・指導	東
6	コミュニケーションに関わる支援	東
7	発症時期別支援	東
8	聴覚障害と社会資源	東
9	定期試験	東

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に該当する教科書の単元を読む(0.5時間)
復習:その日の授業内容を振り返りながら、内容の理解に努める(0.5時間)

【教科書名】 「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 第3版」(医学書院)
「言語聴覚療法シリーズ4 聴覚障害 I-臨床編」(建帛社)

【参考書名】

【評価基準】 定期試験100%

【実務経験】 言語聴覚士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】 頭蓋内の基本的解剖の知識と画像読影の基本を身につける。実際に講義にて紙粘土や、針金細工で頭蓋内血管モデル、大脳半球モデル、錐体路モデルを作成し、臨床で役立つ画像診断のポイントを説明する。

【到達目標】 臨床現場で実際に役立つ画像診断能力を身につける。また高次脳機能を理解するために画像を駆使した臨床解剖の知識を深める。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	画像診断学総論	馬見塚
2	脳血管(willis ring)モデル作成①	馬見塚
3	脳血管(willis ring)モデル作成①	馬見塚
4	大脳半球モデル作成①	馬見塚
5	大脳半球モデル作成②	馬見塚
6	大脳半球機能分担の理解	馬見塚
7	錐体路・錐体外路モデル作成①	馬見塚
8	錐体路・錐体外路モデルの理解	馬見塚
9	三半規管モデル作成	馬見塚
10	聴覚路モデル作成	馬見塚
11	聴覚路の理解	馬見塚
12	画像診断:単純レントゲン	馬見塚
13	画像診断:頭部CT	馬見塚
14	画像診断:頭部MRI	馬見塚
15	画像診断のまとめ	馬見塚
16	定期試験	馬見塚

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「新人ナースのための 塗って覚えて理解する!はじめての脳の神経・血管解剖」(メディカ出版)
「頭部画像診断のここが鑑別ポイント」(羊土社)

【参考書名】 「高次脳機能障害マエストロシリーズ② 画像の見方・使い方」(医歯薬出版)
「ニューロアトミービジュアルカード」(メディカ出版)

【評価基準】 定期試験 100%

科目名： 専門臨床特論Ⅲ(基礎運動学)(前期)

授業形態： 講義・演習

担当教員： 神田 勝利 他
1単位

【授業概要】 運動学の基礎、臨床で良く使用する評価・姿勢・動作・セラピスト共有用語について学び、理解する。

【到達目標】 臨床で活用できる知識・演習を教員教育の元、実施でき、今度の臨床実習に活かすことが目標とする。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	運動学とは、概論について	神田
2	運動力学の基礎 重心、安定性、筋収縮について	神田
3	評価について(関節可動域検査・BRSなど)	神田
4	各姿勢観察について(アライメント:背臥位・座位)(講義・演習)	神田
5	移乗動作(トランスファー),介助動作(起き上がり、立ち上がり動作)について(講義・演習)	神田
6	歩行パターン・観察・歩行補助具(演習)について	神田
7	義肢について	佐々木
8	装具について	佐々木
9	自助具について、ADL	高江
10	定期試験	神田 他

【授業外学修】 予習:授業の準備を行う
復習:配布されたプリントをしっかりと熟読する(1時間)。

【教科書名】

【参考図書】 「基礎運動学」(医歯薬出版)

【評価基準】 定期試験 100%

【授業概要】 言語聴覚療法における評価および臨床能力の修得を目指す(30日間)。

【到達目標】 臨床現場での言語聴覚士の評価を学ぶ。

【授業の進め方】

授業内容	
	各病院において1ヶ月間の評価実習を行う。
1) 目的:	コミュニケーション障害についての知識・技術を習得後、臨床施設において実際に患者に必要な評価を実施し、評価手順などの技術やマナーなどを学ぶ。
	評価結果から患者の問題点を抽出し、病態像を推測し、評価報告書の書き方を学習する。
2) 実習内容:	
	①言語聴覚士の評価の実際を経験する。
	②評価を通じて、患者様の抱えた問題点を抽出し、推測可能な病態像を考察する。
	③ポイントを押さえた評価報告書の作成が適切にできる。
3) 実習終了後、学内で実習についての発表を行う。	
4) 担当教育者	
	臨床実習教育者・専任教員

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「言語聴覚士のための臨床実習テキスト 成人編」(建帛社)

「言語聴覚士のための臨床実習テキスト 小児編」(建帛社)

【参考書名】

【評価基準】 実習成績表80% 演習発表20%

【実務経験】 言語聴覚士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加